

ろくおん 通信

2024年4月1日発行

発行 日本ライトハウス情報文化センター

録音製作係

発行責任者 久保田 文

電話 06-6441-1017

FAX 06-6441-1027

http://www.iccb.jp/

No.262

今号の内容

- ◎ デイジー図書の通信簿 ～「ピックアップ審査」結果報告～ …… 1ページ
- ◎ わかる 使える 広がる！ デイジー図書徹底解説（第44回） …… 5ページ
最終校正（デイジー校正）のポイント：これまでの振り返り

デイジー図書製作の通信簿 ～「ピックアップ審査」結果報告～

録音製作係 木田陽子

昨年12月発行の「ろくおん通信」No. 260に「当館はまだ審査の順番が回ってきていません」と書いた『サピエ図書館』登録音声デイジーデータピックアップ審査ですが、その後、この3月に「審査報告書」が届きました。当館で製作し「サピエ図書館」にアップロードしてきたデイジー図書の中から「審査プロジェクト」によってランダムに3タイトルが選ばれ、「サピエ図書館」登録デイジーデータ製作基準」に合致しているかどうかのチェックが行われた、その結果通知です。

おかげさまで、総評の所には3タイトルとも「聞き取りやすい読み」や「内容が理解しやすい」という内容のコメントが書かれていました。当館で製作に関わる録音ボランティアの皆さんが日々努力して良いものを作ろうとしてくださっているのが認められたように思え、大変うれしく感じました。

ただし、○△×の3段階で判定される各項目の中には「△（データの修正を検討してください）」や「×（データを修正して再度サピエに上げ直してください）」の判定もありました。よりよいデイジー図書を作っていくには、この部分を改善していく必要がありますので、皆さんと情報を共有したいと思います。

なお審査項目は、No. 260とNo. 261（2024年2月）で紹介したもののほか、「読みについて」（明瞭な発声・発音か、言葉の繋がり・文章の切れ目・間の取り方は適

切か、全体を通して自然な抑揚・スピードで読めているか、意味が変わってしまう・意味が分からなくなるアクセントはないか)、「処理について」(原本に合った処理方法が選択されているか、処理内容が適切か) の分野があります。

音量

■ピーク時が-6 dB から-8 dB くらい：1タイトルが△

■全体的に音量が一定：2タイトルが△

上記の両方が当てはまった図書は、途中の1フレーズの音量が急に大きくなったり小さくなったりしており、もう1タイトルは途中から急に音が大きくなっていました。

おそらく前者は、訂正録音の時に前後のフレーズとの音量を合わせなかったことが原因と思われます。読み直しをする際は、録音後に少し前の部分から再生して、前後の音量が変わっていないか、違和感なく聞けるかどうかを毎回確認するようにしてください。

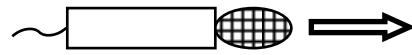
後者は、録音用ソフトウェアとして「Recdia (レクディア)」を使用していることが関わっているように思えます。Recdia を使った録音作業では60分程度の音声を1ファイルとして保存します。そのため、新しいファイルを作成した時に、前のファイルと音量を合わせなかったのかもしれませんが、「1ファイル分読み終えたところでその日の作業を終える場合には、新しいファイルを作成して、少しだけ冒頭を録音しておくこと」と決めているのは、音声ファイルの変わり目で音量が変わってしまわないようにするという意味があります。チェックする項目が多くて大変かとは思いますが、できる限り一定の音量を保つために行ってください。(余談ですが、以前、60分以上録音したファイルが訂正録音の途中で破損したことがありました。現在6階から依頼している蔵書に関して「最初の録音では1ファイル45分程度に」とお願いをしているのは、訂正録音をした際にも60分を超えないようにする工夫です。)

また、館の録音スタジオは複数人で使用しています。直前に使った音訳者の設定が自分にも合うとは限りません。No. 244 (2021年4月) で取り上げた「①マイク音量設定、②騒音測定、③テスト録音」の3点セットを必ず①→②→③の順番で毎回收録前に行い、自分に合った設定にするようにしてください。家庭録音の場合も、その日の体調によって出せる声が変わったり、マイクとの距離が変わったりしますので、1日の収録の始めに“3点セット”を行ってください。

今回の審査では指摘されていませんでしたが、数分ごとに音量が大→小→大→小…となる事例も見かけます。これは、原本の右ページ→真ん中→左ページ→1枚めくって右ページ…と視線が移動するのに合わせて口もマイクから遠ざかる→近づく→また遠ざかる…と動いてしまうためです。録音中に音量のメーターを見るのは大変なことではありますが、一人録音の時は音訳者自身が読みながら、ペア録音の際にはモニター者が同時校正をしながら、音量が-6 dB (Recdia では濃い橙色) あたりになっているかどうか

を確認してください。

録音する際は、マイクの一番音を拾いやすい位置と、口とが一直線に並ぶように、



口の
方へ
真っ
直ぐ

「マイクの種類」と「高さ」を調整してく

ださい（館で使用しているマイクは全て、マイクの丸い部分の一番先が最も音を拾いやすくなっています）。また「マイクと口との距離」も重要です。離れすぎると、紙をめくる小さな音なども一緒に増幅されて雑音となりますし、近づきすぎると呼吸音や口中音が入りやすくなります。適切な距離を取るようになしてください。

録音技術

■セクションの冒頭に長すぎる間がある：1タイトルが△

間の長さが1秒ほどのところと、0.5秒ほどのところがありました。セクションが変わった時にすぐ声が聞こえるように、各セクション第1フレーズ冒頭の間は編集でカットしておきたいものですが、単に削除するだけでは前のセクションとの間が短くなってしまふ可能性があります。その場合はセクション冒頭からカットした間を、前のセクションの最後に貼り付け、最終フレーズが無音にならないように結合しておきましょう。

■雑音 口中音（息を吸う音、ペーパーノイズ）

■発音不明瞭：3タイトルとも△

指摘された内容は三者三様でしたが、たとえば「する」が「すう」に、「られる」が「らえる」に、「人」が「しと」になっている滑舌の悪さや、「島へ行った」が「しまえった」のように連母音が発音できていないものがありました。そのほか、前後の意味はとれるものの、「しゆく」を「しゅうく」と少し長く発音していたり、「僕から」が「ぼっから」、「書くことに」が「かっことに」と促音になっていたりするものについても指摘があがっていました。人間誰も自分の発音しやすいような読みになってしまうものではありますが、「何だか癖のある読み方だな…」と利用者に不信感を与えないよう、毎日の発声練習を欠かさないようにしていただけたらと思います。

■意味を取り違える恐れのあるアクセントの誤り：1タイトルに△

■誤読：2タイトルに△

個人名と地名の読み間違いと、意味を取り違えるアクセントの誤りについては、どれも調査不足が原因と思われます。個人名は参考文献の著者名でしたので、「国会図書館サーチ」や大きめの公共図書館の蔵書検索などで調べることができました。

ほかにも、似たような言葉の取り違い（たとえば「東欧」を「東洋」と読むような）、同じ事柄を指す用語が複数ある言葉の取り違い（たとえば本文には「十七条の憲法」と書かれているのに「じゅうしちじょうけんぼう」と読むような）がありました。音訳者がそう思い込んで読んでしまっていないか、校正の際には（自己校正をする場合も）注意を払う必要があります。

■アクセントの不統一：1タイトルに△

2種類以上のアクセントが許容されている言葉であっても、1冊の図書の中では読みを揃えておくのが良いでしょう。

見出し

■見出しの入力ミス：1タイトルに×

見出しから単語が1つ抜け落ちており、音声と合わない状態になっていました。同じ図書の「書誌情報」欄でも、書名が1文字足りませんでした。デイジー校正者が「見出し」を印刷したものを使って校正を行うのはもちろんですが、編集者が「見出し」を印刷した際にも、再度チェックするようにしてください。デイジー編集に使用している「PRS Pro」で表示される見出しの文字が小さいと感じている方は、画面上部のメニューから「オプション(0)」→「リストフォントサイズ(F)」を選択すると、文字の大きさを変えられるメニューが出てきますので、ここで調節してみてください（大きくしすぎると最後のほうが省略されてしまうので、毎回見出しの入力画面を出して確認することになってしまいますが…）。

処理

■図表の説明が、事実と異なっている：1タイトルに△、1タイトルに×

1タイトルは、ある事柄の行われた期間についての図の中に終わりの日が書かれていない項目があったため、それを「継続中」と説明したのですが、統計資料を使って調査してみると実際は「終わりの日が確定できない事項」だったことが判明しました。

もう1タイトルは、イラストの説明が実際の内容とは異なっていた、というものです。

このように、これからまだ改善すべき点はいくつかありますが、完全な「×」が少なかったことは喜んで良いことだと感じました。慢心してはいけませんが、「利用者のために、聞きやすい図書をつくる」ことを第一に考えながら、デイジー図書の製作を続けていただければと思います。

… … …

全視情協ホームページから「サピエ図書館」登録音声デイジーデータ製作基準」を閲覧することができます。以下がそのURL（ホームページアドレス）です。

https://www.naiiv.net/zensijokyo/recording_standard/

全視情協の「サピエいろいろ」のコーナーには、音声デイジーだけでなく点字文書、テキストデイジー、マルチメディアデイジーなどの製作基準が掲載されています。ここに、この3月から「シネマ・デイジーデータ製作基準」が加わりました。冒頭の「シネマ・デイジー誕生の歴史」の部分は、点字図書館（視覚障害者情報提供施設）で製作される音声解説つき資料が発展していく流れがわかりやすくまとめられています。ご興味があれば、一度ご覧ください。

わかる 使える 広がる！

デジ図書徹底解説(第44回)

図書の特徴に合ったデジ校正のポイントを紹介するこのコーナー。今回はこれまでの内容を振り返ります。<このコーナーで取り上げたケース>と<館からのお知らせ>を合わせ、「ろくおん通信」の号数を記しました。「製作マニュアルだけではちょっとわかりづらい」「こんなときはどうするのだったけ？」の声を集め、テーマに沿った具体例や根拠を解説しています。「製作マニュアル」と共にそばに置いて、音訳・校正・編集作業にお役立てください。「ろくおん通信」バックナンバーは当館ホームページ(<https://www.lighthouse.or.jp/iccb/>)の 刊行物 → ろくおん通信 から閲覧できます。

◆音訳者・校正者・編集者・デジ校正者に関するもの

図・表・写真の読み方…飛び飛びのページに書かれている図・表・写真をまとめて読む場合

(当館マニュアル「デジ図書 録音の順序」12ページ参照)

▼No. 256 (2023年4月) Q1

図・表・写真の読み方…複数枚に対してタイトルやキャプションが1つだけの場合

▼No. 259 (2023年10月) Q1

▼No. 255 (2023年2月) 1～4ページに読み方の具体例が示されています。

【ポイント1】 複数枚を合わせて1セットとして考えます。

【ポイント2】 「図〇枚」と読むのではなく、説明文の中で枚数をコメントします。

※「G (グループ)」の印のつけ方についても詳しく記載されています。

「〇ページの図参照」や「次ページの図参照」とあるケース

▼No. 255 (2023年2月) Q3

▼No. 261 (2024年2月) 色々なケースの具体例が示されています。

【ポイント1】 図の説明文を読んでいるページに読み替えます。

【ポイント2】 「参照」のページを読み替えても原本ページを添える必要はありません。

記号「 」の読み方 (校正者からの質問に答えて)

▼No. 258 (2023年8月) Q2

【ポイント】 「カギカッコ……トジ」と「カギカッコ……カギカクトジ」の読みが混在している場合の考え方。

原本の見出しに番号を付加するケース

▼No. 260 (2023年12月)

【ポイント1】 原本通りの見出しでは見出しの大小(階層)がわからない場合には番号を付加する必要があります。

【ポイント2】 デイジー図書凡例でコメントします。

「索引」の照合について

▼No. 258 (2023年8月) Q1

【ポイント】 音訳前には必ず「索引」と本文のページと語句を照合します。

図書の最後の、ページ数が反対から付いている「索引」「参考文献」など

▼No. 255 (2023年2月) Q1

【ポイント】 目次のページも忘れず変更します。

「原本奥付」の読み順

(当館マニュアル「デイジー図書 録音の順序」8ページ参照)

▼No. 254 (2022年12月) Q2

「デイジー校正表」でデイジー編集者が検討することとは？ (音訳者の質問に答えて)

▼No. 257 (2023年6月) Q1

口中音や雑音、「間」について

(当館マニュアル「デイジー図書 編集のルール」9ページ参照)

▼No. 254 (2022年12月) Q3

録音前の準備について

▼No. 256 (2023年4月) 1～4ページ

【ポイント】 「下調べ」「録音前の環境設定」について

※インターネット検索の方法や辞書の使い方などについても記載されています。

※下調べ票の使い方はNo. 240 (2020年8月)に、ホームページアドレスを「出典」欄に貼り付ける方法はNo. 239 (2020年6月)に、詳しい解説があります。

「音訳前の打ち合わせ」について

▼No. 257 (2023年6月) 4、5ページ

デイジー図書製作の流れについて

▼No. 261 (2024年2月) 4、5ページ

英語の文献の読み方

▼No. 257 (2023年6月) 1～4ページ

◆編集者・デジ校者のみに関するもの

デジ校のページ設定について

(当館マニュアル「デジ校 編集のルール」6ページ参照)

▼No. 254 (2022年12月) Q1

最終ページのページ付け

▼No. 255 (2023年2月) Q2

【ポイント1】 基本は、「本文最終ページ+1ページ」です。

【ポイント2】 白紙ページがある場合について

セクション2フレーズ目の無音について

▼No. 259 (2023年10月) Q2

【ポイント】 セクション2フレーズ目および最終フレーズの無音チェックが必要です。

処理の不統一について……校正表に挙げる基準は？

▼No. 256 (2023年4月) Q2

見出し入力……アルファベットを半角で入力する場合の注意点

▼No. 256 (2023年4月) Q3

見出し入力……「記号」の入力方法

▼No. 259 (2023年10月) 6～8ページ

見出し入力……「機種依存文字(環境依存文字)」について

▼No. 254 (2022年12月) 2～4ページ

◆そのほかの、<館からのお知らせ>

マニュアル改訂箇所(当館の場合)

▼No. 254 (2022年12月) 1～3ページ

☆「始めの枠アナ」と「著作権に関するアナウンス」

☆「終わりの枠アナ」→「デジ校奥付」に変更

☆見出し入力…丸数字(①、②など)やローマ数字(I、IIやi、iiなど)は使わない。

「目次」の読み順について → “原本通りの場所”に変更

▼No. 256 (2023年4月) 4ページ

「マニュアル通り」と「原本通り」

▼No. 258 (2023年8月) 1～3ページ

【ポイント】 「ソファ/ソファー」などの母音の長短や、「ギリシア/ギリシャ/ギリシャ」

などの表記の違いをどこまで原本通りに読むか

「New ウェブスタジオ版 Recdia」バージョンアップ作業のお願い

▼No. 259 (2023年10月) 2～3ページ

デイジー図書製作で気をつけること (全視情協・録音分科会 大会報告)

その1 図書の構成…「録音すべき項目」「録音の順序」「デイジー図書凡例」について

▼No. 260 (2023年12月) 1～5ページ

その2 録音技術・デイジー編集…「録音技術」「デイジー編集」に関して

▼No. 261 (2024年2月) 1～4ページ



館からのお知らせ

★ 6階職員の異動に関するお知らせ

2016年より6階・録音製作係で勤務してきた木田陽子主任が4月から点字製作係に異動することになりました。内藤・中川・宇田は引き続き6階の業務を担当します。また、2月16日(金)付けで根本和広(ねもと かずひろ)職員を採用。4月2日(火)からは数又幸市(かずまた こういち)新・製作部長も6階にデスクを置くことになりました。

根本職員の自己紹介を掲載します(大学時代にポルトガル語を専攻していたそうです)。

Muito Prazer(ムイントプラゼール:はじめまして)

2月よりお世話になっております、根本和広です。

少しでも早く仕事を覚えられるよう、日々研修中です。

旅をするのが大好きです!今でも思い出深いのは、ポルトガルの口カ岬です。

ユーラシア大陸最西端の断崖に灯台があり、広い大西洋を望めます。

石碑には次の詩があります。

アキ オンジ ア テーハ シィ アカバ イ オ マール コメッサ
Aqui...Onde a terra se acaba e o mar começa

(ここに地果て、海始まる)

ぜひ行ってみてください!

★ 5月の休館について

今年度は 5月3日(金)～7日(火) が全館休館となります。